

令和3年度ノーリフティングケア普及促進事業 実践報告会



ノーリフティングケアの「持続可能な教育体制」を目指して



社会福祉法人 内野会 特別養護老人ホーム 本陣園
SINCE 1981

福岡県ノーリフティングケア普及促進事業 参加2年目の施設として

昨年のノーリフティングケアの実践により、体制づくりや福祉用具の整備、技術教育などが大きく進み、腰痛保持者・抱え上げの減少につながりました。

一方で、まだ不十分な点や計画したが立ち消えになってしまった事も…
⇒ノーリフティングケアを持続していくための体制作りが必要

昨年の課題としてあがった「現場での行動変容ができていないこと」と「計画的な取り組みができていない」に対して、教育的視点を通して、本陣園の2年目の実践内容を報告します。



1年を通して見えてきた課題の抽出



昨年は、委員会メンバー全員と推進員でノーリフティングケアが現場に定着できるように進めてきたが…

見えてきた課題

- ①職員は普段から腰痛予防を意識できている？
- ②OJTは適宜実施しているが教育したことは本当に現場で実践できている？
- ③計画をなかなか実行に移せず、遅れ遅れになることも…なかには頓挫している取り組みも…

準備①指導する側の底上げ：教育者のレベルアップ



「令和3年度福岡県ノーリフティングケア普及促進事業指導者育成コース」へ委員2名が参加。

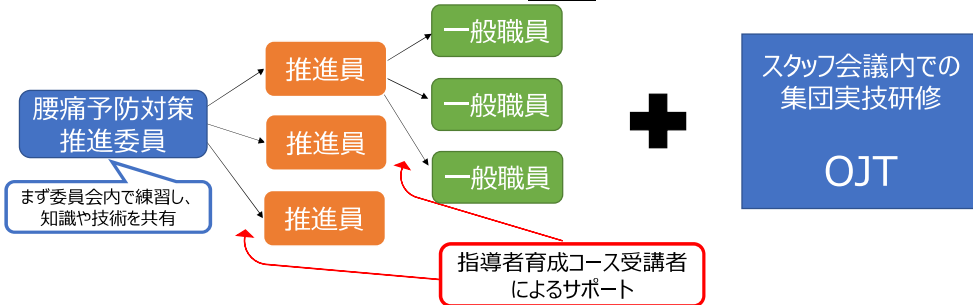
「指導のための」技術を丁寧に学習できたことで自信をもって分かりやすく教育できるようになった。



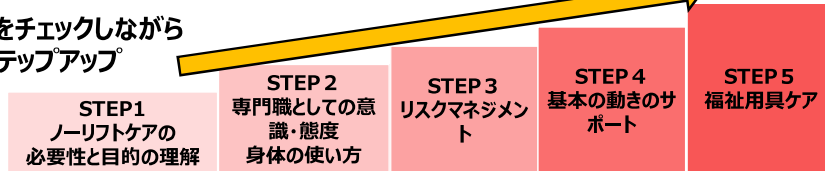
昨年よりもさらに充実した教育が可能に！



準備②教育の流れの見直し



理解度をチェックしながら
ステップアップ



5

課題②教育したことは本当に現場で実践できている？

持続可能な体制づくりへ向けての改善②「ラウンド」による実践状況の確認

- ・委員会が現場をまわり、実践状況を確認・指導
- ・後日、改善できているかを再確認



ラウンドチェックシート	課題項目	対応状況	記録
人員	介助人数	実施状況	
作業時間	作業時間		
場所	作業場所		
作業内容	作業内容		
特記	特記事項		

「ラウンドチェックシート」を作成
抱え上げが生じやすい介護場面で
「介助方法」「作業環境」をチェック

「伝えっぱなし」にせず目で見え確認！できていないところは見直し、「PDCAサイクル」を意識する

課題①職員は普段から腰痛予防を意識できている？

持続可能な体制づくりへ向けての改善① 日々使用するケアチェック表にノーリフトの視点を追加

モニタリング時に介護職員が使用する書式である「ケアチェック表」を変更。
新たに腰痛予防や自立支援に関する項目を追加した。

	<input type="checkbox"/> ラジオ体操	<input type="checkbox"/> その他(右に記載)

定期的に日々のケアを見直す機会をつくることで、教育してきたことを実際のケア現場で意識し続けられるよう工夫！

6

課題①②教育したことは本当に現場で実践できている？職員は普段から腰痛予防を意識できている？

持続可能な体制づくりへ向けての改善③ ケア手順の見える化

- ・介護技術の教育とともに、個々の入居者様への介護方法も検討し、わかりやすいかたちで共有（手順書を作成）
- ・次回のラウンドで適切に実施できているか確認し再検討

◎基本教育だけでは対処が難しい事例

介護職員と委員会と一緒に検討

手順書の形で共有

ラウンドで再検討

手順書のイメージ





課題③計画をなかなか実行に移せず、遅れ遅れになることも…

持続可能な体制づくりへ向けての改善④
「生きた」マニュアル作り

取り組みを持続可能なものとするためには**マニュアル化が必須!**

スケジュールや実践内容を記したマニュアルを作成しそれをもとに実践。その**結果をもとに改訂を繰り返**し、より**実用性の高いもの**へ。(現在も随時改定中)

内容・スケジュール等を定め、ルーティン化することで**ノーリフティングケアを漏れなく継続できた!**

年間スケジュール

1月	教育「スライディングボード」
2月	簡易腰痛調査
3月	簡易腰痛調査結果より腰痛高リスクへの面談、対策
4月	スタッフ会議研修「ノーリフティングケアの必要性での意識・態度」「身体の使い方」
5月	〃
6月	スタッフ会議研修「寝返り」「起き上がり」「立ち上
7月	〃
8月	簡易腰痛調査 教育「ノーリフティングケアの必要性と目的の理解度」「身体の使い方」
9月	教育「寝返り」「起き上がり」「立ち上がり」「座り」
10月	教育「 年間スケジュール管理担当者を決めておくことで、計画的に実施できるようになった! 」
11月	教育「 対策 」
12月	教育「 実 」

ラウンドスケジュール
毎月第2火曜に実施
1月：北町1区、2月：北町2区、3月：西町1区、4月：南町1区、5月：南町2区、6月：南町2区、7月：北町1区、8月：西町1区、9月：西町1区、10月：西町2区、11月



腰痛予防対策推進委員会運営
マニュアル (一部抜粋)



現場の変化①「抱え上げがある」と答えた職員が増加

Q:日常業務において持ち上げや抱え上げはあるか

	R3年4月	R3年12月
ほとんどあり	2人	1人
一部あり	25人	29人



以前より確実に改善しているはずなのに増えてしまった…

職員一人一人が「これまで気に留めていなかった**腰痛リスク**」に**意識を向けるようになった?**

実際に、現場から挙げる腰痛リスクには去年は上がってこなかった意外なものも多い!



→確実に本陣園でノーリフティングケアが定着してきている!

現場の変化②委員会メンバーにケア方法の疑問や困っていることの相談が増えた

現場から「先日習った介助方法を〇〇さんにする場合、どうしたらいいですか?」と声上がることも。

→委員会が適宜OJTを実施し、率先してフォローしていく。

今後の課題

統一されたケアの実践に向けて、声をあげた職員以外とも介助方法を共有する仕組みをつつていく。

できた仕組みは委員会運営マニュアルへ。今後のOJTで活用する。



まとめ

- ・介助者、入居者様へ適切なケアを実践し続けられるよう、適宜課題の抽出を行い、PDCAサイクルを継続して回していく必要がある
- ・ノーリフティングケア全てに係る**書式やスケジュールを整備**し、教育だけでなく委員会としての取り組みをマニュアルにし、適宜更新していく
- ・常にリスクを拾える体制を継続し、職員全員がその意識を持てるよう促す

上記を意識し、ノーリフティングケアを継続していくことで…

入居者様・職員が安心・安全に過ごせる施設へ!

